

令和6年度第1回唐津市行政改革推進会議 会議概要

(令和6年11月28日開催)

1 議題と主な意見

(1) 令和5年度行政評価について

- 掲げている施策が漠然として具体的でない。具体的目標としてデータを持つのであれば基準をしっかりと設定しないと進捗管理をする中で、考えも変わってきてしまうこともあるのではないかと。計画期間は特化して進捗管理すれば資料としても振り返る意味が出てくる。
- 自己分析、自己評価を各課がして、全体的にデータ分析をする作業がないから客観的に見ても分かりにくいのではないかと。総合的な分析が入らないと市全体として改革していく動きが取りにくい。

(2) 事務事業評価について

- 数値化したデータに基づいた結論には意味があるから尊重すべき。
- 事業をする必要がないと判断すべきものを無駄に維持することがないようにしないとパフォーマンスだけになってしまう。
- 職員の意識改革も必要で一つひとつ突き詰めてやっていかないと意味がない。

(3) 行財政改革2021の進捗について

(4) 行財政改革2025（仮称）について

- 計画しただけで管理をしていないと新たな計画を作ってもかたちだけの計画になってしまう。深掘りをして今後の推移や重要となる点を示し、市民や市職員に浸透するような計画にしないといけない。
- 少子化はこれからも進み、人材の流出が懸念される。また今後の市の財政運営も不安である。人材の育成、市の将来は行財政改革にすごくかかっていると思うから是非ともしっかりと取り組んでいただきたい。
- 市町村合併して20年が経っている。市民センターのあり方検討を進めないといけない。
- 行財政改革をするために、計画には重点的にすべき明確な目標を示して取り組んでいかないといけない。

2 今後の対応

会議の結果は市のホームページで公表するとともに、関係各課と共有し、今後の取り組みの参考とする。